

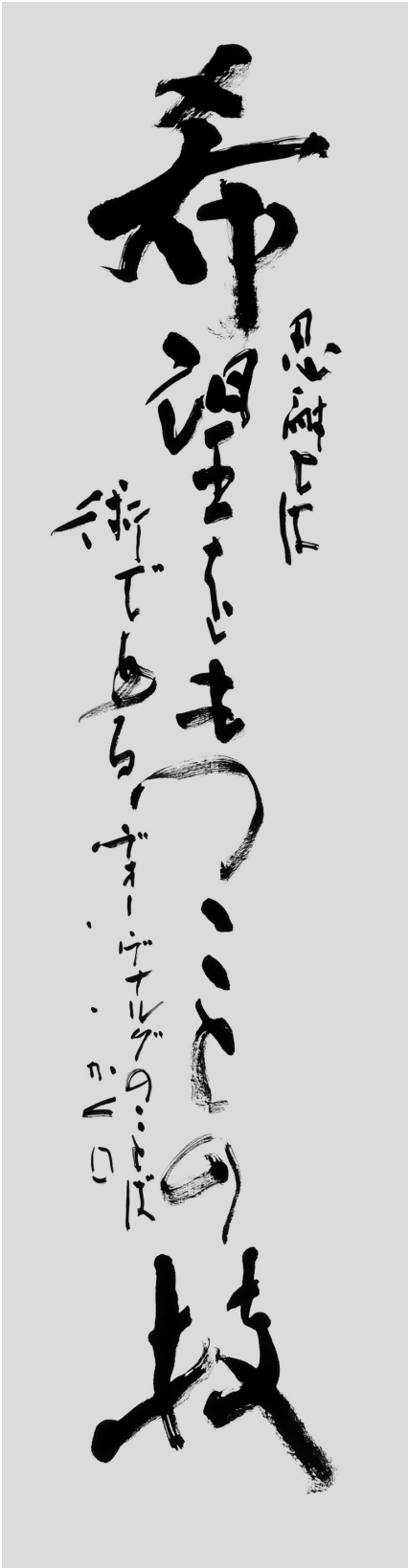
4月25日正午必着

明石春浦先生書



松下問童子 言師採藥去 只在此山中 雲深不知處 (賈島)

明石幸子書



忍耐とは希望をもつことの技術である (ヴォーヴナルグのことは)

春去能忘詩共賦客
來應是酒頻賒
書日

雨宮春聲先生書

春去能忘詩共賦

客來應是酒頻賒

(戴叔倫)

春が過ぎて詩を作るのを忘れ、客がくると急に酒を買いにゆく。
・賒 掛けて買うこと。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

桃花源裡人家(王維)

桃花源裡の人家

田舎の風景、桃源に似しものありしならん

雲生水殿龍常現
月滿官松鶴並棲 (郭銑)

雲は水殿に生じて龍常に現れ
月は官松に満ちて鶴並び棲む

水殿は水府即ち水の最深のところ。官松は杜甫の詩に「東閣官梅動詩興」とあるなどによれば、役所の松であろうか。

送友人歸宜春(張喬)

友人の宜春に帰るを送る 張喬

落花兼柳絮 無處不紛紛

落花 柳絮を兼ね 処として紛紛たらざるは無し

遠道空歸去 流鶯獨自聞

遠道 空しく帰り去り 流鶯 ひとり聞く

野橋喧碓水 山郭入樓雲

野橋 碓に喧しき水 山郭 楼に入る雲

故里南陵曲 秋期更送君

故里 南陵の曲 秋期 更に君を送らん

やはらかに柳あをめる 北上の岸邊目に見ゆ 泣けとごとくに (石川啄木)

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

窓 雀
晩 啄
北

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

4月25日正午必着

行書

雀啄北
窗晚

隸書

雀啄北
窗晚

明石春浦先生書

草書

雀啄北
窗晚

行草書

雀啄北
窗晚

林中に住居には格別の楽しみもなく、花壇の垣根のほとりに茶を淹れるほどのこと
雀は北の窓辺に餌を啄んで日は暮れゆき、僧が西の閣をうち開けばひえびえとしている
橋につきあたりつつ、二つの川はすみやかに流れ、月光の下に撞く鐘の音はわびしくもうすれゆく
夜明けにはまたお別れせねばならぬ、前途の険しさをいたずらに悲しむばかり

龍翔喜「胡權訪宿」 喩鳧

林棲無異歡

煮茗就花欄

雀啄北窓晚

僧開西閣寒

衝橋二水急

扣月一鐘殘

明發還分手

徒悲行路難

龍翔にして胡權が訪ねて宿するを喜ぶ 喩鳧

林棲 異歡無し

茗を煮て 花欄に就く

雀は北窓の晩に啄み

僧は西閣の寒きを開く

橋を衝いて 二水急に

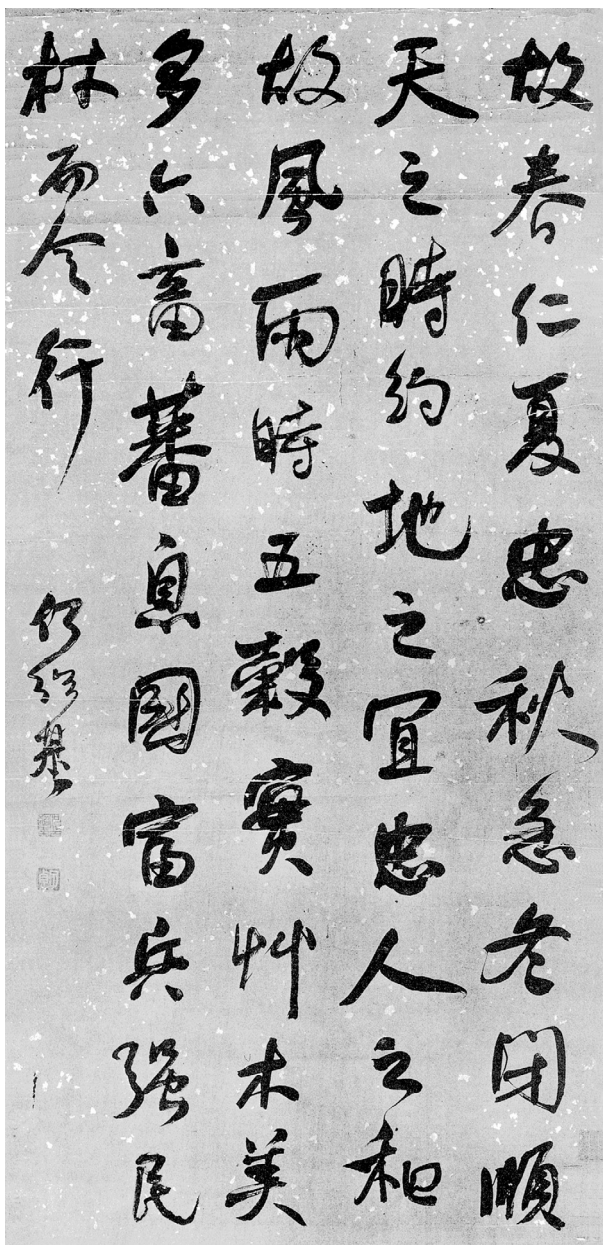
月を扣いて 一鐘残す

明發 還た手を分つ

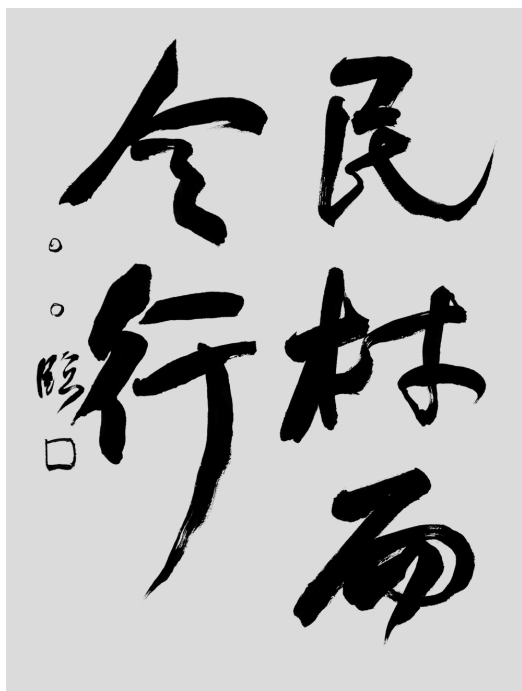
徒らに悲しむ 行路の難きを

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

4月25日正午必着



西 墨濤先生臨書



民材而令行

清 何紹基・行書管子禁藏篇

何紹基（嘉慶四年・一七九九〜同治十二年・一八七三年）は、湖南省道州の生まれで、字は子貞、号は東洲、晩年には癡叟と号した。幼い頃は母方の里に預けられ、八歳で北京に上り父母と暮らした。父の何凌漢は戸部尚書（大蔵大臣）にまでなった人で、学問好きで教育熱心であったため、彼は恵まれた環境のもと博い教養を身につけていった。

三十七歳で進士に及第し翰林院に奉職した。その後各職を歴任したのち五十七歳で野に下り、七十五歳の時病に倒れ、蘇州で没した。彼の書の根底にあるのは顔真卿で、最も強い影響を受けた。しかし、阮元・包世臣との出会いによって碑学に目覚め、漢碑や北魏の書の臨模に没頭した。各体を能くしたが、いずれの体も自己の世界に引き込み、形を似せることにのみ捉われず、自らの性霊をもって筆を揮い、独自の書風を形成していった。彼の独特な書の世界を堪能したい。

※「管子」は古代中国春秋時代の管仲に仮託して書かれた、法家または道家・雑家の書物。「禁藏」は宮中の庫のこと。（春濤）

故春仁、夏忠、秋急、冬閉。順天之時、約地之宜、忠人之和、故風雨時、五穀實、草木美、多、六畜蕃息、國富兵強、民材而令行。

何紹基

4月25日正午必着

故風雨時五穀實

見何子貞行書管子禁箴篇癸卯中呂。節臨

故風雨時、五穀實…

見何子貞行書管子禁箴篇癸卯中呂〇〇節臨

△做書參考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

春眠不覺曉
處處聞曉鳥
夜來風雨聲
花落知多少

孟浩然詩春曉癸卯中呂做何子貞筆意書而不得為一可愧耳。〇〇

春眠不覺曉

處處聞曉鳥

夜來風雨聲

花落知多少

落款

孟浩然詩 春曉 癸卯中呂 做何子貞筆意書而不得萬一可愧耳

〇〇

書き下し

孟浩然の詩 春曉 を癸卯中呂に 何子貞の筆意を倣いて書けども、萬の一を得ず、愧ずべきのみ

4月25日正午必着

教育部毛筆



せい

ふく

中学一年

雨宮春聲先生書



し

しゅう

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



か
花

ふん
粉

小学五年

榎戸春龍先生書



しよ
書

もつ
物

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着



しら
白

たま
玉

小学三年

藤田幸春先生書



まい
毎

にち
日

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

く さ 小学一年・幼年



森戸春濤書

立 つ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

黄色の チューリップ	花だんに さいた赤や
---------------	---------------

小学五年

花びらが まい落ちる	そよ風に 山ざくらの
---------------	---------------

小学六年

山は百花 咲きほこる	春の緑に 包まれて野
---------------	---------------

中学

模様に色 どられた山	花の香りと 若葉の緑の
---------------	----------------

一般(級位)

ひたひたの 夕霞たなびく	春立つらしも
-----------------	--------

一般(段位)

ひさかたの 天あめの香具山 この夕ゆふ霞たなびく 春立つらしも (萬葉集・柿本人麻呂)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ち	つ
ゆ	く
う	し
り	
つ	さ
ぶ	く
	ら

幼年

一	き
ね	よ
ん	う
せ	か
い	ら
で	
す	

小学一年

は	お
	た
か	ま
え	じ
る	や
の	く
子	し

小学二年

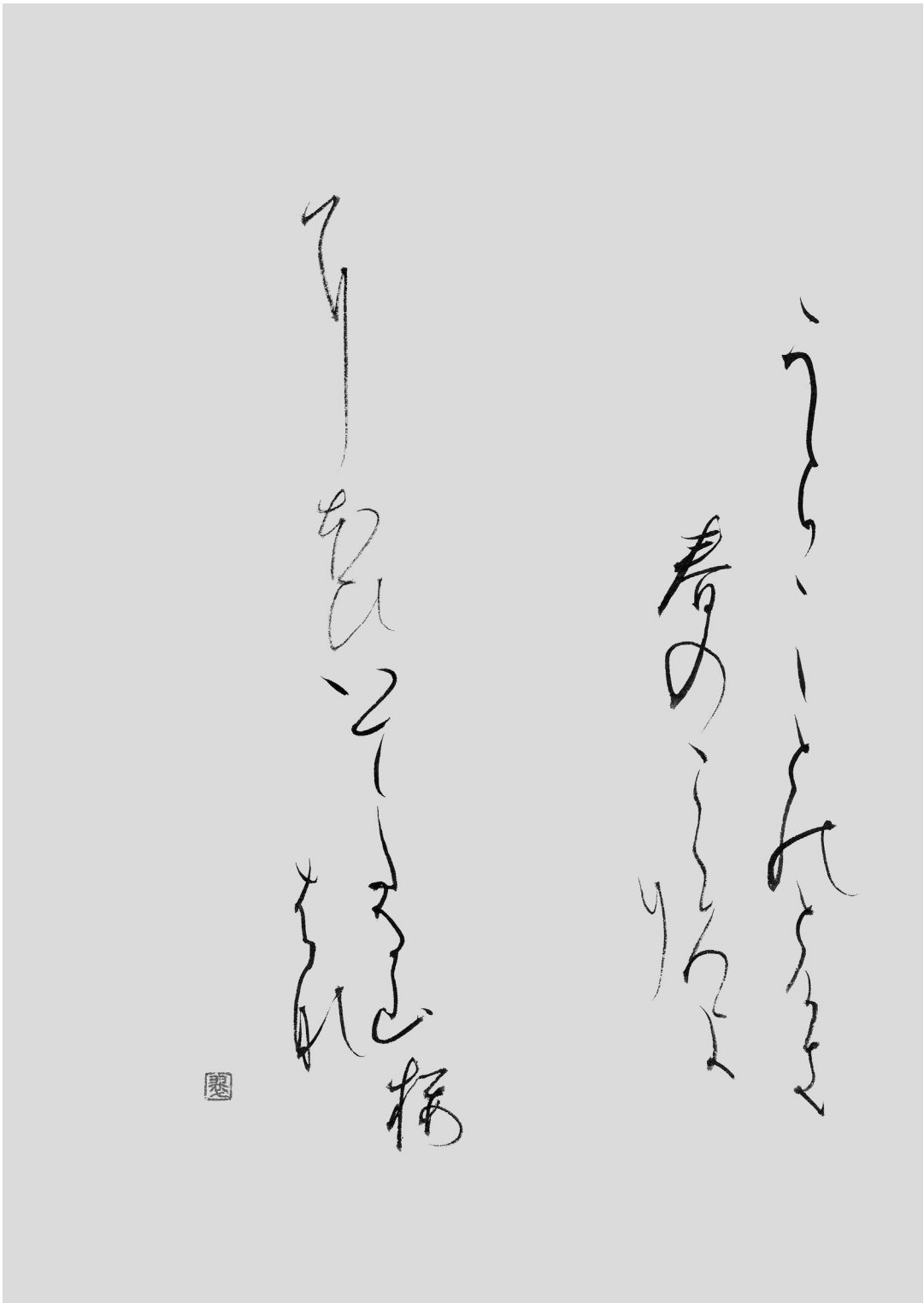
を	田
	の
さ	
ん	あ
歩	ぜ
す	み
る	ち

小学三年

山	風
で	か
さ	お
え	る
ず	み
る	ど
小	り
鳥	の

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

うらうらと
能のとき春のころより
耳本にほひいてた多
山桜はな者那
(加茂真淵)